

## 必修テーマ【古文】

## 入試頻出ジャンル 世俗説話

## テーマを学ぶ意義

## ■「世俗説話」とは

説話集は、伝説や実話などを素材にした話を編纂したもので、仏教説話と世俗説話に大別される。今回扱うのは、あらゆる階層の主人公が珍談・奇談を繰り広げる世俗説話である。代表的な出典は以下の二つ。

・『今昔物語集』……「今は昔」となむ語り伝へたるとや」という一話完結型の語りのスタイルで、収録話数は千を超える。日本のみならず中国・インドを舞台とする話も多数収録されている。

・『宇治拾遺物語』……内容・スタイルともに『今昔』と共通する点が多々ある。笑いの要素が大きな特徴。

その他、『江談抄』『古本説話集』『古事談』『十訓抄』『古今著聞集』などが主要な出典。

## ■入試頻出の理由

説話はストーリー展開がはっきりしているため、内容把握の設問が作りやすい。登場人物の関係やできごとの展開を正確に読み取る力が見られている。

## 到達目標

## ■頻出パターンを押さえ、話の展開を考えて読めるようになるう！

説話には典型的な展開パターンがある。1 知恵と機転く難題解決型く滑稽話の四分類をまず押さえ、意識して読解しよう。

## 1 知恵と機転 く難題解決型く

1 難問・難題に直面 / ピンチに遭遇

【例】(帝の怒りに触れて帝から難題を出される)

←

2 知恵を働かせる / 機転を利かせる

←

3 難題を解決 / ピンチを切り抜ける / 危機を回避する

【例】(難題をみごとに解いて見せて、帝の怒りも解ける)

このパターンでは、登場人物が**実名**で示されることも多い。  
= 語られている内容の**現実味**が増す。

## 2 奇怪な事件 く怪奇話く

1 怨霊や妖怪が登場して不気味な事件を引き起こす

登場人物が、怨霊や鬼や妖怪に出会って怖い体験をする

←

2 怨霊や妖怪のために登場人物が命を落とす

※逆に、主人公が知恵や勇気を発揮して、怨霊や妖怪を退散させる、という展開もある

・このパターンでは、事件の異常さ・怪奇性が第一のポイント。  
 登場人物が、どんな行動をしたか、どう反応したかが第二のポイント。  
 登場人物や舞台が具体的に固有名詞で示されることが多い。  
 =  
 怪奇話に現実味を持たせる効果。

### 3 歌の効用 〈歌徳説話〉

1 すぐれた和歌が神仏や人を感動させる（和歌の代わりに漢詩の場合もある）

←  
 2 そのおかげで、様々な幸運が舞い込んでくる。たとえば……

- ・ 厳しく罰せられるはずが、罪を許される
- ・ 禄（褒美）を得る
- ・ 官位を与えられる・昇進する・立身出世する
- ・ 離れかけた恋人（夫、妻）の愛を取り戻す
- ・ 病気が治る・命が助かる

作者は、高名な歌人の場合もあるが、むしろ下級役人や農民など無名のアマチュアの場合も多い。

=  
 展開に意外性が付け加わる。

### 4 愚かな行動 〈滑稽話〉

1 人々の笑いを誘い、教訓を与える滑稽話や失敗談  
 失笑や嘲笑を引き起こす愚かな行為

←  
 2 本人が真面目であるほど、愚行の滑稽さが増幅される

※愚行の主が僧や聖なら

- ① 社会的信用や人望がある人が愚行を演じる
- ② こんなことをするのか？ こんなことをしていいのか？  
 ↓ 周囲の疑問・反発
- ③ 表向きの顔とは違う人物像が暴露される  
 ↓ 裏の顔が明らかになり、社会的な権威が失墜する
- ④ 笑いが失笑・嘲笑に変わる  
 ↓ 嘲笑は愚行に対する批判にもなっている

説話で取り上げられる僧の対照的な姿⇨説話の世界の多様性・広さ・深さを表す。

- ⇔
- ・ 超人的な力（霊力・法力）を発揮する高僧や修行者
- ・ 愚行に走る僧や聖

## 読解のポイント

### 1 問題読解は「リード文」から始まる

- ・問題文に付けられているリード文や注は、読解の大きなヒントになる。
- ・特に章段全文が掲載されていない場合には、リード文にストーリーや場面・登場人物についての説明・解説が書かれているので、まずリード文の内容をしっかり把握することが問題読解の第一歩。

### 2 ストーリーのパターンを見極める

- ・パターンを把握することで読解の焦点を合わせることができる。
- ・問題文は難題解決型に当たるのか、怪奇話なのか、それとも歌徳説話か、全体の構成を把握して見極めよう。

### 3 ストーリー展開を押さえる

- ・展開パターンの基本を参考に物語の進行の大筋をつかむ。
- ・説話では登場人物の精密な心理描写よりもストーリー展開に力点が置かれているため、具体的な出来事の叙述が中心になる。話のオチ・面白さのポイントをつかむことが大切。

### 4 難題解決型なら

- ・どんな難題・難問か、それを出したのは誰か、出されたのは誰か、どうやって解決したかを押さえることがポイント。

### 5 歌徳説話なら和歌の読解がポイント

- ・歌徳説話は、あくまでも歌の効用を語るためのストーリーなので、物語の展開と歌の内容を重ね合わせて読み取ることが大切。
- ・誰が、どんな場面で、どんな歌を作ったか、その歌はどんな効果を発揮したかを押さえる。

- ・歌が効果を発揮する（相手を感動させる・納得させる）ためには、
- ①歌が場面にびつたりはまっている（要求された課題に、きちんと応えている）
- ②巧みな仕掛けを使っている（修辞技巧、特に掛詞などが優れている）

などの要素を充たしていることが必要。

### 6 滑稽話なら、笑いのツボを押さえる

- ・ストーリーや登場人物がとった行動の、どこが面白いのかを考えて読む。

### 7 登場人物の言動に注目する

- ・説話では登場「人物」は人間とは限らない。動物・怨霊・妖怪なども登場「人物」として出てくる。
- ・中心となる人物（＝主人公）の行動がストーリーの柱になっているので、主人公の言動に注目してストーリーを読み進める。

### 8 末尾の筆者のコメント・評言にも注意

- ・末尾に、筆者の話題に対する評価が記されることがある。肯定的評価なのか、否定的評価なのか、不審・不可解の念なのか押さえる。

## ☑ チェックテスト

次の文章は、『宇治拾遺物語』の一節である。ある時、道で出会った孔子と童が問答を交わした場面であるが、これを読み、あとの問に答えよ。

今は昔、唐に、孔子、道を行き給ふに、八つばかりなる童あひぬ。孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と洛陽と、いづれか遠き」と。孔子いらへ給ふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば日の出づる所は」**A**。洛陽は**B**と思ふ」と申しければ、孔子、**C**かしこき童なりと感じ給ひける。「孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただ者にはあらぬなりけり」とぞ人言ひける。

問一 空欄 **A**・**B** に最適な語を、それぞれ文中から抜き出して補え。

**A** 「 \_\_\_\_\_ 」 **B** 「 \_\_\_\_\_ 」

問二 傍線 **C** の理由の説明として最適なものを次の中から選び、記号を○で囲め。

**A** 無学な童が、有名人の孔子を相手に遠慮もせずに質問したから。

**B** 児童の質問が、いかにも子どもらしい素朴なものであったから。児童が常識を逆転させた新鮮な発想で答えを示したから。

**C** 児童の質問が、孔子が抱いていた疑問と偶然一致していたから。

## 解答

問一 **A** 近し **B** 遠し

問二 **ウ**

## 解説

本文は、パターン1の「難題解決型」の説話である。「日の入る所と洛陽」のどちらが遠いか近いか、という点が「難題」にあたる。そして、童の柔軟で新鮮な発想が知恵者・孔子を感心させるほどの「名解答」であった、という点がこの説話の核心になる。

問一は、難題に対して童が示した解答に関する設問である。問二は、難題解決というポイントを押さえれば孔子が感心した理由も見えてくる。

## 全訳

今から言えば昔のことだが、中国で、孔子が、道を歩いておられると、八つぐらいの子どもが行き会った。孔子に（次のように）質問して申し上げるには、「日の入るところと洛陽と、どちらが遠いですか」と。孔子は（こう）お答えなさるには、「日の入るところは遠い。洛陽は近い。」（すると）子どもは（こう）申し上げるには、「日が出たり入ったりするところは見えます。洛陽はまだ見たことがあります。だから、日の出るところは近い。洛陽は遠いと思います」と申し上げたので、孔子は、賢い子である、と感心なさった。「孔子に（対して）は、このように質問する人もいないのに、このように質問したのは、並みの子どもではないのだなあ」と人々は言い合ったそうだ。